

育成 モノづくり人材

Vol. 47

神奈川県立 神奈川工業高校



後藤校長

10階建ての近代的な校舎から「横浜みどりみらい」地区に立ち並ぶ高層ビルが見える神奈川県立神奈川工業高。

校は、1911年（明治44）5月に県内初の工業学校として設立した。後藤博史校長は「進学と就職を両輪にしながら自ら学び行動する力を育む」を教育目標としている。

【DATA】 ▷校長=後藤博史氏 ▷所在地=横浜市神奈川区 ▷学科構成=機械科、建設科、電気科、デザイン科 ▷生徒総数=1234人 ▷主要設備=旋盤、フライス盤、マシニングセンター、溶接機、3Dプリンター、測量機など ▷主な進路=関電工、東京ガス、JFEエンジニアリング、富士電機、三菱電機、LIXI L、オリンパス、日産自動車、関東学院大学、神奈川大学、神奈川工科大学、東海大学、日本大学、信州大学、東京芸術大学など

「自ら学ぶ」105年の伝統校

方針とし、そのベースとなる理数科学教育に力を入れる。

同校は全日制と定時制に分かれ、全日制が機械、建設、電気、デザインの4学科、定時制がデザイン科を除く3学科で構成。全日制創立105年の伝統校で、「神奈川」の名前を冠した工業高校であるだけに「生徒も自負心を持つて授業や実習していく考えだ。

3年生の約半数が進学し、4年制と短期大

・関心 希望進路の実現に向けた学習ニーズ

藤校長は胸を張る。

(横浜・渡部敦)

(金曜日に掲載)

られるような人格の形は卒業対象295人のうち120-130人が就職する見通しだ。産業界の期待も大きくなり、県内外から約1200社の求人が寄せら

れていた。生徒の学習意欲や興味を高めるため、連携企画による「第16回高校生ものづくりコンテスト全国大会」の木材加工

部門に建設科3年生の生徒が出場した。制限時間内に木造の屋根部品を製作する競技で惜しくも上位入賞は逃したが、初の全国大会出場という快挙だけに「近年にない結果を出してくれた」と喜びもひとしおだ。

地域との関係性も重視し、地元自治会の要請で建設科の生徒が神

社の屋根補修を手がけた。デザイン科の生徒

も近隣の商店街活性化

を目的にPRビデオを

制作するなど「授業

の中でも地域貢献活動を

取り入れている」と後藤

校長は基礎や専門系の学力向上、進路学を合わせて3割が大

16年9月に県から大

きに応じて、連携企

画大会」の木材加工

部門に建設科3年生の生徒が出場した。制限時間内に木造の屋根部品を製作する競技で惜しくも上位入賞は逃したが、初の全国大会出場という快挙だけに「近年にない結果を出してくれた」と喜びもひとしおだ。

地域との関係性も重視し、地元自治会の要請で建設科の生徒が神

社の屋根補修を手がけた。デザイン科の生徒

も近隣の商店街活性化

を目的にPRビデオを

制作するなど「授業

の中でも地域貢献活動を

取り入れている」と後藤

校長は胸を張る。

(横浜・渡部敦)

(金曜日に掲載)



高校生ものづくりコンテスト全国大会の木材加工部門に初出場した